

教科(科目)	家庭（家庭基礎）	単位数	2単位	学年	2学年
使用教科書	Survive!!高等学校家庭基礎（教育図書）				
副教材等	家庭科55 デジタル＋（教育図書）				

1 グラデュエーション・ポリシー及びカリキュラム・ポリシー

グラデュエーション・ポリシー	卒業までにこのような資質・能力を育みます。 ①明確な目標を設定し、その達成に向けて継続的に努力できる力を育成します。 ②主体的・意欲的に学びに向かう姿勢と、誠実で礼儀正しい態度を育成します。 ③前向きに自己の向上に努め、思いやりを持って行動できる力を育成します。 ④自ら課題を見つけて解決しようと行動し、社会に貢献する力を育成します。
カリキュラム・ポリシー	上記の資質・能力を育成するため、このような教育活動を行います。 ①基礎的・基本的な学力の定着を図るとともに、ICTの活用など工夫をし、生徒が主体的・対話的に学習に取り組めるよう「分かる」授業の実践・改善に努めます。 ②総合的な探究の時間では、教科等横断的な視点で、地域社会と自己との関わりから課題を発見し、多様な他者と協働して解決しようとする活動に取り組みます。 ③生徒個々の持っている長所・能力を最大限伸ばし、生徒が自らの可能性に挑戦し、進路希望を実現できるようキャリア教育を推進します。 ④社会に貢献する姿勢を身に付けさせるために、新潟県立大学との交流、地域行事への参加、ボランティア活動などへの積極的な参加を促進します。

2 学習目標

生活の営みに係る見方や考え方を働かせ、実践的で体験的な学習活動を通して様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が相互に協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1)人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに関連する技能を身に付けるようにする。 (2)家庭や地域・社会における生活の中から課題を見つけて課題を設定し、その課題解決を目指して思考を深め、適切に判断し、創造する能力を養う。 (3)様々な人と協働し、よりよい社会の構築を目指して地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実に向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

3 指導の重点

①人の一生を生涯発達の視点でとらえ、家族や家庭生活の在り方、乳幼児と高齢者と生活と福祉について理解させ、男女が相互に協力して家族の一員としての役割をはたし家庭を築くことの重要性について認識させる。 ②衣食住の生活を科学的に理解させ、先人の知恵や文化に関心をもたせ、持続可能な社会を目指して環境に配慮し、適切な意思決定に基づいた消費生活を営むことができるようにする。 ③家庭経済や消費生活に関する基礎的な知識を習得させるとともに、現代の消費生活の課題について認識させ、消費者としての責任をもって行動できるようにする。
--

4 評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などの基礎的な知識と技能を身に付けている。	家庭や地域・社会における生活の中から課題を設定し、その課題解決を目指して思考を深め、適切に判断し、創造する能力を養っている。	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築を目指して地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実に向上を図るために実践しようとしている。

5 評価方法

	各観点における評価方法は次のとおりです。		
	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価方法	・定期考査の分析 ・授業プリントのワークシートや提出物の内容 ・実習の取り組み状況や技術の確認などから評価します。	・授業中の発言、発表 ・授業プリントのワークシートや提出物の内容などから評価します。	・実習の取り組み状況 ・授業プリントのワークシートや提出物の内容などから評価します。
	各観点「A：十分満足できる」、「B：おおむね満足できる」、「C：努力を要する」で評価します。		

6 学習計画

月	単元名	教材名	学習活動(指導内容)	時間	評価方法
4 5 6	口絵 2章 衣生活	家庭基礎の学習 8 人と衣服 9 衣服計画・衣服の表示 10 衣服の成り立ち 11 衣服の構造 12 衣服の手入れ・管理 13 これからの衣生活 エプロン製作	・今の自分を見つめ、将来の自分とライフコースについて考える。 ・衣服の機能について理解する。 ・ライフステージに適した衣生活について理解する ・衣服の素材の種類や特徴について理解する。 ・衣服素材の性能や構成を理解する。 ・衣服の手入れや管理の必要性について考える。 ・衣服の再資源化について考える。 ・衣服の機能、素材と管理の知識を応用し、エプロンを製作する。	1 8 7	プリント 授業の取り組み 製作作品 (エプロン)
8 9	3章 食生活	14 人と食生活 15 食品と栄養素 16 食品の選択・保存 安全な取り扱い 17 献立作成 18 調理の基礎 19 これからの食生活 調理実習	・食事と健康の関わりや、食事の役割を理解する。 ・栄養素の種類や機能、食品の特徴を理解する。 ・食品選択の知識や、安全な食生活を営むための技術を身につける。 ・現代の食生活の問題や課題について考える。 ・調理実習を通して、安全で衛生的な調理の知識と技術、配膳や食事のマナーを身につける。	20 4	プリント 授業の取り組み 実習記録
10	8章 青年期・家族	33 青年期を生きる 34 現代の家族 35 家庭生活の成り立ち 36 家族と法律	・人の一生を生涯発達視点で捉え、青年期をどう生きるか考える。 ・各ライフステージの特徴と課題を理解する。 ・男女が協力して家庭をつくることの意義を理解する。	5	プリント 授業の取り組み 定期考査
11	5章 子どもの保育	25 子どもの発達 26 子どもの遊び 27 子どもの生活・大人の役割 28 子育て環境、子育て支援	・子どもの心身の発達の特徴について理解する。 ・子どもの生活習慣・食事・健康と安全の重要性を理解する。 ・現代の子どもを取り巻く環境の問題について考える。	8	プリント 授業の取り組み

12	6章 高齢期の生活 7章 共生社会	29 高齢者を理解する 30 高齢者の生活を 支える仕組み 31 地域で支える高齢 社会 32 ともに生き、支え 合う社会	・将来像としての高齢期について考える。 ・高齢期の心身の特徴を理解する。 ・高齢者を支える制度や仕組みについて理解する。 ・社会の一員として何ができるかを考える。	5	プリント 授業の取り組み 定期考査
1	4章 住生活	20 人と住まい 21 ライフスタイルと 住まい 22 安全な住まい 23 衛生的な住まい 24 これからの住生活	・安全で快適な住まいの条件について科学的に理解する。 ・自分の住生活を点検し、安全で快適な住生活のための対策 を具体的に考え、工夫する。	5	プリント 授業の取り組み
2 3	1章 消費生活・環 境	1 成年年齢の引き 下げ 2 契約と消費トラ ブル 3 消費者の権利と 責任 4 消費者の意思決定 5 生活費と家計 6 将来の経済計画 7 これからの消費 生活	・18歳で大人になる自覚を持つ。 ・成年と未成年の違いについて理解し、今をどう過ごすか 考える。 ・消費者トラブルと、消費者保護の仕組みを理解する。 ・生涯を見通した経済計画の重要性を理解する。	7	プリント 授業の取り組み 定期考査

計 70 時間 (50 分授業)

7 課題・提出物等

- ・実習後に振り返りシートの提出があります。
- ・授業で使用するプリントは、定期的に提出して確認します。

8 担当者からの一言

自分の生活と関連させ、生活の充実向上をめざして将来を考えよう。

(担当：宮尾 晶子)